

資料

戦後日本における矢内原忠雄研究論著目録（初稿）

岡崎 滋 樹

はしがき

この目録は、主として戦後日本において刊行された「矢内原忠雄」に関する著書・論文・記事などを集大成する目的をもって作成されている。周知の如く矢内原は、日本における国際経済学の「開拓者」としての重要な役割を学説史において記憶されている人物であるが、同時にまた無教会キリスト教信徒・指導者として大きな活躍をしていただけに、彼をめぐる言説の語り部は、多岐の分野／領域に及んでいる。別言すれば矢内原は、経済学や神学といった特定の方向からのみの接近を、本質的に拒絶する人物なのである。

この点については既に、拙稿「矢内原忠雄研究の系譜－戦後日本における言説」（『社会システム研究』第24号、2012年3月）において、中間的な総括と展望をおこなったので、ここでは重複させない。簡明にいうならば、彼の活動を総体として理解するためにわたしたちの「専門」を超えた分野における研究をも、紐解かねばならないと、編者は考えている。

したがって今回は、1945年以降の論著を網羅的に蒐集、その全体像を読者に案内することを、最大の目的に設定した。限られた時間内における作業であったため、見落としなどの不備もあると認識するが、敢えて「初稿」として公表し、利用者各位からのご指導・ご叱正を仰ぎたい。

最後に、凡例的な事項を記す。

第一に、配列は「著書の部」と「論文・記事の部」に大別した。前者で具体的な書籍データを提示した場合でも、個別論文次元において後者に再録している場合もある。

第二に、配列は公表された年次の昇順とする。分類の必要性があるかもしれないが、分野が重複する作品も数多く存在していたため、時系列的な主題の変化を観察することが可能となる単純な方法を採用した次第である。

第三に、著者名などの固有名詞を除き、漢字表記は原則として常用漢字・当用漢字としている。

第四に、『藤田若雄キリスト教社会思想著作集』1～3（木鐸社、1983～84年）には、矢内原に関する数多くの記事が収録されているので、これについては別にまとめて紹介しておいた。

第五に、台湾における矢内原研究に関する研究リストを、末尾に附しておく。『帝国主義下の台湾』の解釈史的な探求のためには有益な資料となるであろう。

以上、この作業が利用者の援助を得ながらより完成に近づくことを願いつつ、簡単なはしがき

としたい。

＊ ＊

[著書の部]

・1960年代

藤田若雄・富田和久・大塚久雄『真理への畏敬—矢内原忠雄先生信仰五十年記念講演—』（みすず書房，1962年）。

山形聖書研究会『矢内原忠雄先生と山形—追憶文集—』（山形聖書研究会，1962年）。

石館守三編『大学と人間叢書第1巻—人生の選択・矢内原忠雄の生涯—』（大学セミナーハウス，1963年）。

今堀和友・富田和久編『科学・平和・信仰』（みすず書房，1967年）。

藤田若雄『矢内原忠雄—その生涯と信仰—』（教文館，1967年）。

南原繁・大内兵衛・黒崎幸吉・楊井克己・大塚久雄編『矢内原忠雄—信仰・学問・生涯—』（岩波書店，1968年）。

溝口正『日本の教育と矢内原忠雄』（待晨堂，1969年）。

・1970年代

アジア経済研究所『「中国統一化」論争の研究』（アジア経済研究所，1971年）。

坂井基始良『坂井基始良著作集』第1～3巻（坂井基始良著作集刊行会，1971年）。

矢内原忠雄先生十周年記念文集刊行会『われらの課題—矢内原忠雄先生十周年記念文集—』（矢内原忠雄先生十周年記念文集刊行会，1971年）。

同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『特高資料による戦時下のキリスト教運動』Ⅰ～Ⅱ（新教出版社，1972年）。

同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『特高資料による戦時下のキリスト教運動』Ⅲ（新教出版社，1973年）。

※同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『特高資料による戦時下のキリスト教運動Ⅰ』（新教出版社，2003年）において「矢内原忠雄」が記載されているページは，p. 42, 58, 60, である。

また同『特高資料による戦時下のキリスト教運動Ⅱ』（新教出版社，2003年），p. 6, 9, pp. 37～40, pp. 120～124, pp. 287～288, p. 292, 309, 314, pp. 414～422。同『特高資料による戦時下のキリスト教運動Ⅲ』（新教出版社，2003年），p. 291, 292, 299, 308, など。

西村秀夫『人と思想シリーズⅡ—矢内原忠雄—』（日本基督教団出版局，1975年）。

・1980年代

中村勝巳『内村鑑三と矢内原忠雄』（リプロポート，1981年）。

藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集・第1巻—一年功体制下の職場問題—』（木鐸社，1983年）

藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集・第2巻—誓約集団の提示—』（木鐸社，1983年）

藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集・第3巻—無教

会主義の自己点検―』（木鐸社，1984年）

佐藤全弘『矢内原忠雄と日本精神』（キリスト教図書出版社，1984年）。

大河原礼三編『矢内原事件50年』（木鐸社，1987年）。

矢内原忠雄著，矢内原伊作編『矢内原先生の聖書ものがたり・上―今井館聖書学校―』（新地書房，1988年）。

矢内原忠雄著，矢内原伊作編『矢内原先生の聖書ものがたり・下―今井館聖書学校―』（新地書房，1988年）。

量義治『無教会の展開―塚本虎二・三谷隆正・矢内原忠雄・関根正雄の歴史的考察他―』（新地書房，1989年）。

・1990年代

三島甫他『矢内原忠雄記念講演集―矢内原忠雄と現代―』（新地書房，1990年）。

庄司源弥『矢内原忠雄―時流に抗言する学者，たたかう基督者の生涯と思想―』（東北まぶね社，1991年）。

陳茂棠編『矢内原忠雄三十周年記念キリスト教講演集―仙台・東京・浜松・名古屋・京都―』（東京エクレシア新聞社，1993年）。

高木謙次『矢内原忠雄小論―記念講演集―』（キリスト教図書出版社，1996年）。

矢内原伊作『矢内原忠雄伝』（みすず書房，1998年）。

・2000年代

Susan C. Townsend, *Yanaihara Tadao and Japanese Colonial Policy — REDEEMING EMPIRE —*, Curzon Press, 2000年。

若林正文『矢内原忠雄「帝国主義下の台湾」精読』（岩波書店，2001年）。

矢内原忠雄『矢内原忠雄―日本の説教11』解説・川中子義勝（日本キリスト教団出版局，2004年）。

鴨下重彦編『現代に求められている教養を問う―新渡戸稲造，南原繁，矢内原忠雄，吉田富三に学ぶ―』（to be 出版，2005年）。

高木謙次『高木謙次選集第2巻―矢内原忠雄とその周辺―』（キリスト教図書出版社，2005年）。

渡辺信夫・岩崎孝志・山口陽一『キリスト者の時代精神，その嘘と実―キリシタン，新渡戸稲造，矢内原忠雄，柏木義円―』（いのちのことば社，2005年）。

江端公典『内村鑑三とその系譜』（日本経済評論社，2006年）。

大庭治夫『内村・新渡戸精神の銀河系小宇宙―南原繁・矢内原忠雄精神を經由した松田智雄と隅谷三喜男の精神史―』（国際学術技術研究所，2007年）。

矢内原忠雄『新装版 内村鑑三とともに』（東京大学出版会，2011年）。

鴨下重彦・木畑洋一・池田信雄・川中子義勝『矢内原忠雄』（東京大学出版会，2011年）に，鴨下重彦「昭和初期からの風雪の人」（pp. 2～67），木畑洋一「植民政策論・国際関係論」（pp. 90～107），若林正文「台湾との関わり―花瓶の思い出」（pp. 108～129），今泉裕美子「南島群島研究」（pp. 130～162），塩出浩之「植民地研究と《植民》概念」（pp. 163～180），川中子義勝「『宗教改革論』と東大聖書研究会」（pp. 192～212），三浦永光「信仰と学問・一九三〇年代を中心に」（pp. 213～235），柴田真希都「伝道者・牧会者・聖書研究者」（pp. 236～255），

池田信雄「教養学部の船出」(pp. 288～301), 川西進「想い出の矢内原忠雄と教養学部」(pp. 302～311) 所収。

〔論文・記事の部〕

• 1940年代

田邊耕一郎「矢内原忠雄ほか四氏の『恒久平和論』について」, 『書評』第4巻5月号(日本出版協会, 1949年), pp. 22～26。

• 1950年代

野依秀市「東大総長・矢内原忠雄の蒙を啓く」, 新政界社『新政界』第2巻第5号, 1956年, pp. 2～12。

野依秀市「再び矢内原東大学長の誤れる思想を糾弾す」, 新政界社『新政界』第2巻第6号, 1956年, pp. 10～16。

• 1960年代

長幸男「矢内原忠雄の学問と思想」, 『思想』453号(岩波書店, 1962年), pp. 308～318。

鶴飼信成「矢内原先生のことなど」, 『図書』163号(岩波書店, 1963年), pp. 40～42。

川田侃「矢内原忠雄先生の講義の思い出」, 東京大学経友クラブ『経友』第28号, 1963年, pp. 43～48。

恒藤恭「矢内原忠雄君のおもい出」, 『図書』163号(岩波書店, 1963年), pp. 43～45。

恒藤恭「矢内原忠雄君のおもい出(続き)」, 『図書』164号(岩波書店, 1963年), pp. 16～17。

中野好夫「矢内原忠雄先生の言葉」, 『図書』164号(岩波書店, 1963年), pp. 14～15。

家永三郎「戦時下の個人雑誌」, 『思想』475号(岩波書店, 1964年), pp. 88～99。

幼方直吉「朝鮮参政権問題の歴史的意義」, 東京大学東洋文化研究所『東洋文化』36巻, 1964年, pp. 1～20。

中村勝巳「南原繁・大内兵衛・大塚久雄他監修・編纂『矢内原忠雄全集』(経済学篇, 第1～5巻)」, 慶應義塾大学『三田學會雑誌』第57巻3号, 1964年, pp. 72～80。

幼方直吉「矢内原忠雄と朝鮮」, 『思想』495号(岩波書店, 1965年), pp. 41～52。

川田侃「矢内原忠雄と国際平和主義」, 『中央公論』第80巻10号(中央公論新社, 1965年), pp. 432～437。

幼方直吉“TADA0 YANAIHARA — His Colonial Studies and Religious Faith —” *The Developing Economies*, Vol. 4, issue 1, Institute of Asian Economic Affairs, 1966年, pp. 90～105。

岩隈直「矢内原忠雄」, 岩隈直『無教会主義とは何か』(山本書店, 1967年), pp. 204～226。

大塚久雄「内村鑑三と矢内原忠雄」, 大塚久雄『社会科学と信仰の間』(図書新聞社, 1967年), pp. 265～348。

関根正雄「矢内原先生を送る」, 関根正雄『世俗の中の福音』(キリスト教夜間講座出版部, 1967年), p. 163。

吉川勇一「矢内原忠雄総長のこと」, 『思想の科学』第61巻(思想の科学社, 1967年), pp. 44～47。

篠田一人「無教会キリスト者の抵抗—藤沢武義を中心として—」, 同志社大学人文科学研究所（キリスト教社会問題研究会）編『戦時下抵抗の研究Ⅰ』（みすず書房, 1968年）, pp. 48~92。

• 1970年代

幼方直吉「信仰の倫理と政治の倫理—金教臣と矢内原忠雄の場合—」, 仁井田陞博士追悼論文集 編集委員会編『仁井田陞博士追悼論文集第3巻—日本法とアジア—』（勁草書房, 1970年）, pp. 73~98。

生越忠・西村秀夫・藤田若雄「矢内原から茅へ（上）—座談会—」, 『朝日ジャーナル』12巻46号（1970年）, pp. 31~35。

生越忠・西村秀夫・藤田若雄「矢内原から茅へ（中）—座談会—」, 『朝日ジャーナル』12巻47号（1970年）, pp. 31~35。

生越忠・西村秀夫・藤田若雄「矢内原から茅へ（下）—座談会—」, 『朝日ジャーナル』12巻48号（1970年）, pp. 33~37。

平川祐弘「書評：矢内原忠雄著『土曜学校講義』五・六・七（『神曲』講義）みすず書房刊」, イタリア学会・日本ダンテ学会共編『イタリア学会誌』第19巻, 1970年, pp. 140~149。

アジア経済研究所『「中国統一化」論争資料集』（アジア経済研究所, 1971年）, pp. 1~15, 矢内原忠雄「支那問題の所在」所収。

小林文男「矢内原忠雄の中国観—『中国再認識』への志向と日中戦争批判の倫理—」, アジア経済研究所『アジア経済』第13巻2号, 1972年, pp. 19~31。

戴国輝「細川嘉六と矢内原忠雄」, 朝日新聞社『朝日ジャーナル』第14巻52号, 1972年, pp. 38~46。

西村成雄「『中国統一化』論争の一側面—日中戦争前夜の中国と日本—」, 歴史学研究会編『歴史学研究』391号（青木書店, 1972年）, pp. 26~37。

太田雄三「『平和主義者』矢内原忠雄について」, 東京大学教養学部『比較文化研究』第13輯, 1973年, pp. 1~36。

太田雄三「YANAIHARA TADAO (1893-1961) : THE MAN AS A PACIFIST」, 東京大学教養学部『教養学科紀要』6巻, 1973年, pp. 21~40。

原島圭二「昭和史の中の矢内原忠雄—戦前戦中を中心にして—」, 三浦永光・泉治典・中沢治樹・原島圭二『無教会と現代—内村鑑三を中心として—』（キリスト教夜間講座出版部, 1973年）, pp. 97~118。

山田幸三郎「矢内原先生の思い出」, 山田幸三郎『信仰五十年—山田幸三郎遺稿集—』（山田幸三郎遺稿刊行会, 1973年）, pp. 183~184。

笠原芳光「矢内原忠雄・伊作父子」, 『現代の眼』第15巻7号（現代評論社, 1974年）, pp. 270~279。

堀江宗生「矢内原忠雄の教育思想と学生問題研究所の活動」, 東海大学『東海大学紀要—学生生活研究所—』第4輯, 1974年, pp. 1~9。

大内兵衛「矢内原教授の『植民及植民政策』」（1926年）, 大内兵衛『大内兵衛著作集—第9巻—』（岩波書店, 1975年）, pp. 596~612。

「矢内原忠雄外数名に関する出版法違反事件概略（昭和十三年三月）」, 内川芳美解説『現代史資

料41—マス・メディア統制2—』(みすず書房, 1975年), pp. 118~123。

柴田文明「矢内原忠雄の信仰特質—聖書の救済論理より見たる—」, 関根正雄編『信仰と政治の根本問題—無教会二代目研究を中心に—』(キリスト教図書出版社, 1976年), pp. 45~86。

涂照彦「矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』」, 涂照彦『日本帝国主義下の台湾』(東京大学出版会, 1975年), pp. 2~7

高橋三郎「矢内原忠雄先生」, 高橋三郎『地の塩となった人々』(教文館, 1976年), pp. 68~121。

太田雄三「『平和主義者』矢内原忠雄について」, 太田雄三著『内村鑑三—その世界主義と日本主義をめぐって—』(研究社出版, 1977年), pp. 375~406。

広岡謙治「矢内原忠雄」, 藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々(上巻)—敗戦の神義論—』(木鐸社, 1977年), pp. 176~202。

渡部恵一郎「矢内原忠雄」, 藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々(下巻)—十五年戦争と無教会二代目—』(木鐸社, 1977年), pp. 290~322。

石井勗「矢内原教授の辞職事件」, 石井勗『東大とともに五十年』(原書房, 1978年), pp. 68~70。

高崎宗司「矢内原忠雄と朝鮮・覚書き」, 『季刊三千里』第13号(三千里社, 1978年), pp. 60~67。

• 1980年代

土肥昭夫「矢内原忠雄の思想と行動」, 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』(新教出版社, 1980年), pp. 391~400。

飯田鼎「矢内原忠雄と日本帝国主義研究」, 慶應義塾大学経済学会『三田學會雑誌』第75巻2号, 1982年, pp. 35~51。

石原兵永「矢内原忠雄先生と私」, 石原兵永『忘れ得ぬ人々—内村鑑三をめぐって—』(キリスト教図書出版社, 1982年), pp. 158~173。

石原兵永「矢内原先生召される」, 石原兵永『忘れ得ぬ人々—内村鑑三をめぐって—』(キリスト教図書出版社, 1982年), pp. 149~157。

久保亨「戦間期中国経済史の研究視角をめぐって—『半植民地半封建』概念の再検討—」, 歴史学研究会編『歴史学研究』506号(青木書店, 1982年), pp. 41~51。

小林文男「戦前日本知識人の中国認識—日中戦争をめぐる矢内原忠雄の対応を中心に—」, 阿部洋編『日中関係と文化摩擦』(巖南堂書店, 1982年), pp. 209~244。

高崎宗司「日本人の朝鮮統治批判論—三・一運動後を中心に—」, 『季刊三千里』第34号(三千里社, 1983年), pp. 98~108。

「人物小伝—矢内原忠雄—」, 吉田稔『日本のリーダー・第9巻—信仰と精神の開拓者—』(ティビーエス・ブリタニカ, 1983年)中に所収, pp. 308~309。

浅田喬二「矢内原忠雄の植民政策論」, 浅田喬二『日本知識人の植民地認識』(校倉書房, 1985年), pp. 12~24。

中西泰之「矢内原忠雄の人口問題論」, 京都大学『経済論叢』第135号5・6号, 1985年, pp. 86~103。

深川博史「1920年代朝鮮・台湾における日本帝国主義—矢内原忠雄の植民政策論—」, 九州大学

- 大学院経済学会『経済論究』第62号，1985年，pp.71～91。
- 山口伊左衛門「矢内原忠雄と社会主義」，山口伊左衛門『世界の民として』（キリスト教図書出版社，1985年），pp.247～254。
- 山口伊左衛門「矢内原忠雄の信仰と現代」，山口伊左衛門『世界の民として』（キリスト教図書出版社，1985年），pp.211～246。
- 遊口親之「黒崎幸吉，矢内原忠雄らの無教会主義について—新居浜でのプレマス・ブレズレンとの関係を中心に—」，桃山学院短期大学瀬戸内産業文化研究所『瀬戸内産業文化研究』第9号，1985年，pp.81～102。
- 韓哲曦「矢内原忠雄と金教臣」，飯沼二郎・韓哲曦『日本帝国主義下の朝鮮伝道』（日本基督教団出版局，1985年），pp.217～222。
- 片岡俊郎「インド金為替本位制度（1893～1913年）に対する矢内原忠雄氏と新庄博氏の見解」，福山大学『福山大学経済学論集』第10巻1・2号，1986年，pp.181～203。
- 小林文男「日中戦争と矢内原忠雄」，小林文男『中国現代史の断章』（谷沢書房，1986年），pp.73～107。
- 三輪公忠「新渡戸稲造と矢内原忠雄」，三輪公忠『日本・1945年の視点』（東京大学出版会，1986年），pp.14～19。
- 三輪公忠「矢内原忠雄の復活」，三輪公忠『日本・1945年の視点』（東京大学出版会，1986年），pp.203～212。
- 森山茂徳「矢内原忠雄」，山崎正和編『言論は日本を動かす第3巻—アジアを夢みる—』（株式会社講談社，1986年），pp.203～230。
- 柳父圀近「矢内原忠雄論」，基督教文化学会『基督教文化学会年報』第32号，1986年，pp.33～52。
- 家永三郎「日本思想史上の矢内原忠雄と私の接触した矢内原先生」，家永三郎『激動七十年の歴史を生きて』（新地書房，1987年），pp.165～169。
- 太田哲男「反戦・平和の哲学—吉野作造と矢内原忠雄を中心に—」，太田哲男著『大正デモクラシーの思想水脈』（同時代社，1987年），pp.195～219。
- 政池仁「矢内原忠雄先生の思い出」，政池仁『政池仁著作集16—交友録上—』（キリスト教図書出版社，1987年），pp.238～247。
- 政池仁「矢内原忠雄先生を天に送りて」，政池仁『政池仁著作集16—交友録上—』（キリスト教図書出版社，1987年），pp.235～238。
- 矢内原勝「矢内原忠雄の植民政策の理論と実証」，慶應義塾大学経済学会『三田學會雑誌』第80巻4号，1987年，pp.1～25。
- 浅田喬二「矢内原忠雄の植民論（上）」，駒沢大学『駒沢大学経済学論集』第20巻1号，1988年，pp.21～82。
- 浅田喬二「矢内原忠雄の植民論（中）」，駒沢大学『駒沢大学経済学論集』第20巻2号，1988年，pp.1～69。
- 浅田喬二「矢内原忠雄の植民論（下）」，駒沢大学『駒沢大学経済学論集』第20巻3号，1988年，pp.1～75。

川西進「父と子—フィリップ・ゴス父子と矢内原忠雄父子—」, 東大比較文学会『比較文学研究』第54号, 1988年, pp.1~23。

矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』（岩波書店, 1988年, 復刻版）, 隅谷三喜男「解説」, pp.285~303。

飯沼二郎「新渡戸稲造と矢内原忠雄」, 同志社大学人文科学研究所・キリスト教社会問題研究会『キリスト教社会問題研究』第37号, 1989年, pp.401~414。

・1990年代

浅田喬二「矢内原忠雄の植民論」, 浅田喬二『日本植民地研究史論』（未来社, 1990年）, pp.315~518。

山口伊左衛門「矢内原忠雄の『帝国主義研究』と現代—飢えに苦しむ人々とともに—」, 三島甫他『矢内原忠雄記念講演集・矢内原忠雄と現代』（新地書房, 1990年）, pp.125~136。

柳父圀近「矢内原忠雄—帝国主義とファシズム批判の預言者—」, キリスト教文化学会編『プロテスタント人物史』（ヨルダン社, 1990年）, pp.180~211。

田中和男「地域研究としての植民政策—矢内原忠雄におけるオリエンタリズム—」, 同志社大学人文科学研究所『社会科学』第47号, 1991年, pp.291~306。

山口博一「『先進』と『発展途上』の概念」, 「アジア停滞性論と近代化論」, 山口博一『地域研究論』（アジア経済研究所, 1991年）, pp.61~106。

竹中佳彦「敗戦直後の矢内原忠雄—民族共同体と絶対的平和—」, 『思想』822号（岩波書店, 1992年）, pp.52~86。

竹中佳彦「三つの『自由主義』観—河合栄治郎・矢内原忠雄・鈴木安蔵の論争から—」, 筑波大学『筑波法政』第15号, 1992年, pp.181~236。

浅田喬二「戦前日本における植民政策研究の二大潮流について—矢内原忠雄と細川嘉六の植民理論—」, 『歴史評論』513号（校倉書房, 1993年）, pp.16~31。

竹中佳彦「帝国主義下の矢内原忠雄—1931—1937—」, 北九州大学『法政論集』第20巻4号, 1993年, pp.129~186。

清水昭次「矢内原忠雄」, 無教会史研究会編『無教会史Ⅱ』（新教出版社, 1993年）, pp.85~95。

村上勝彦「矢内原忠雄における植民論と植民政策」, 『岩波講座近代日本と植民地4—統合と支配の論理—』, （岩波書店, 1993年）, pp.205~237。

無教会史研究会「塚本—矢内原書簡」, 無教会史研究会編『無教会史Ⅱ』（新教出版社, 1993年）, pp.315~341。

池田温「矢内原忠雄と牧口常三郎」, 創価大学『創価大学人文論集』第6巻, 1994年, pp.1~4。

石渡茂「『植民地』研究の一考察—矢内原忠雄の『植民論』をめぐって—」, 国際基督教大学学報ⅡB『社会科学ジャーナル』第32号, 1994年, pp.57~71。

姜尚中「キリスト教・植民地・憲法」, 『現代思想』第23巻10号（青土社, 1995年）, pp.62~76。

清水昭次「矢内原忠雄」, 無教会史研究会編『無教会史Ⅲ』（新教出版社, 1995年）, pp.69~77。

今泉裕美子「矢内原忠雄の国際関係研究と植民政策研究—講義ノートを読む—」, 津田塾大学『国際関係学研究』第23号, 1996年, pp.137~148。

今泉裕美子「仲宗根政善先生と矢内原忠雄先生の出会い」, 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化

- 研究』第22巻，1996年，pp.118～130。
- Susan C. Townsend, “Yanaiharu Tadao and the Irish question: a comparative analysis of the Irish and Korean questions, 1919-36”, *Irish Historical Studies Publications Ltd. Irish Historical Studies*, Vol. 30, No. 118, 1996年，pp. 195～205。
- 田中和男「矢内原忠雄」，同志社大学人文科学研究所編『近代天皇制とキリスト教』（人文書院，1996年）の第Ⅱ部・主要キリスト者における天皇制中に所収。pp. 352～370。
- 宮田光雄「非戦論の継承」，宮田光雄『宮田光雄集《聖書の信仰》Ⅴ—平和の福音—』（岩波書店，1996年），pp. 299～315。
- 内海健寿「矢内原忠雄『人口問題と聖書』（1928年）の今日的意義」，日本人口学会『人口学研究』第21号，1997年，pp. 51～54。
- 笠井恵二「矢内原忠雄の無教会主義における自然理解」，京都産業大学『京都産業大学日本文化研究所紀要』第3号，1997年，pp. 217～292。
- 小林文男「矢内原忠雄と中国—その日中戦争批判の倫理—」，愛媛大学教育学部『愛媛大学教育学部紀要第Ⅱ部人文・社会科学』第30巻1号，1997年，pp. 65～79。
- 齋藤英里「矢内原忠雄とアイルランド—周辺から見た植民学—」，中村勝巳編『歴史のなかの現代—西洋・アジア・日本—』（ミネルヴァ書房，1999年），pp. 257～283。
- 2000年代
- 中野涼子「矢内原忠雄と国際平和の模索」，神戸大学『六甲台論集—国際協力研究編—』第1号，2000年，pp. 1～14。
- 「矢内原忠雄関係資料」，高木謙次編『内村鑑三流域—キリスト教精神の探求—』（真菜書房，2000年），pp. 116～139に所収。
- 今泉裕美子「戦前期日本の国際関係研究にみる『地域』—矢内原忠雄の南洋群島委任統治研究を事例として—」，筑波大学国際政治経済研究科『国際政治経済学研究』第7号，2001年，pp. 35～42。
- 栗原純「矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』と戦後台湾植民地史研究」，小島晋治・大里浩秋・並木頼寿『20世紀の中国研究—その遺産をどう生かすか—』（研文出版，2001年），pp. 254～275。
- スーザン・タウンゼント「矢内原忠雄と大英帝国—植民地改革のモデルとして—」（見市雅俊訳），『日英交流史1600—2000(5) 社会・文化』（東京大学出版会，2001年），pp. 166～181。
- 田中和男「矢内原忠雄における中国の影」，西田毅編『シリーズ・近代日本の知第2巻近代日本のアポリア—近代化と自我・ナショナリズムの諸相—』（晃洋書房，2001年），pp. 242～266。
- 福田秀一「矢内原忠雄の留学日記」，国際基督教大学『アジア文化研究』27号，2001年，pp. 43～61。
- 川西進「詩人としての矢内原忠雄」，『無教会研究』第5号（無教会研修所，2002年），pp. 34～60。
- 佐藤全弘「矢内原忠雄と新渡戸稲造」，『無教会研究』第5号（無教会研修所，2002年），pp. 1～33。
- 将基面貴巳「矢内原忠雄と『平和国家』の理想」，『思想』938号（岩波書店，2002年），pp. 27～47。

- 高木謙次「矢内原忠雄」, 無教会史研究会編『無教会史Ⅳ』（新教出版社, 2002年）, pp. 35～42。
- 西村秀夫「矢内原忠雄と教育」, 『無教会研究』第5号（無教会研修所, 2002年）, pp. 61～71。
- 原島圭二「矢内原忠雄と東京大学」, 『無教会研究』第5号（無教会研修所, 2002年）, pp. 72～92。
- 福田秀一「矢内原忠雄の留学生活」, 国際基督教大学『アジア文化研究』28号, 2002年, pp. 1～20。
- 米谷匡史「帝国日本の植民・社会政策論—矢内原忠雄と《世界史》の変容—」, 『社会思想史研究』（藤原書店, 2002年）, pp. 25～31。
- 井坂康志「幻と希望の轍—石橋湛山と矢内原忠雄における平和思想の比較考察（上）—」, 石橋湛山記念財団『自由思想』第94巻, 2003年, pp. 45～61。
- 米谷匡史「矢内原忠雄の《植民・社会政策》論—植民地帝国日本における『社会』統治の問題—」, 『思想』945号（岩波書店, 2003年）, pp. 138～153。
- 井坂康志「幻と希望の轍—石橋湛山と矢内原忠雄における平和思想の比較考察（下）—」, 石橋湛山記念財団『自由思想』第95巻, 2004年, pp. 31～39。
- 今滝憲雄「矢内原忠雄の預言者的精神と平和思想—絶対矛盾的自己同一をモチーフとして—」, 現代キリスト教思想研究会『アジア・キリスト教・多元性』第2号, 2004年, pp. 67～96。
- 大濱徹也「矢内原忠雄の目線」, 『無教会研究』第7号（無教会研修所, 2004年）, pp. 39～70。
- 大濱徹也「矢内原忠雄にみる日本精神」, 『無教会研究』第7号（無教会研修所, 2004年）, pp. 71～116。
- 竹内真澄「内村鑑三と矢内原忠雄」, 桃山学院大学『桃山学院大学社会学論集』第37巻2号, 2004年, pp. 103～120。
- 櫻澤誠「矢内原忠雄の沖縄訪問—講演における論理構造とその受容について—」, 立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』第85巻, 2005年, pp. 149～170。
- 大濱徹也「キリスト者にみる日本への目—矢内原忠雄を場として—」, 明治聖徳記念学会『明治聖徳記念学会紀要』第43号, 2006年, pp. 62～71。
- 尾上新太郎「矢内原忠雄の悲哀に関して」, 大阪大学日本語日本文化教育センター『日本語・日本文化研究』第16巻, 2006年, pp. 1～10。
- 齋藤英里「再論矢内原忠雄とアイルランド」, 日本アイルランド協会学術研究部『エール』第26巻, 2006年, pp. 1～11。
- 中野涼子「国際関係論における倫理と規範—信仰の人・矢内原忠雄の問題意識—」, 南山大学社会倫理研究所『社会と倫理』第20号, 2006年, pp. 127～138。
- 今滝憲雄「矢内原忠雄の朝鮮観—隣国愛の可能性をめぐって—」, 芦名定道編『多元的世界における寛容と公共性—東アジアの視点から—』（晃洋書房, 2007年）, pp. 98～108。
- 鴨下重彦「矢内原忠雄—戦後相継いだ無教会総長—」, 南原繁研究会編『宗教は必要か—南原繁の信仰と思想—』（株式会社 to be 出版, 2007年）, pp. 143～171。
- 千葉眞「非戦論と天皇制をめぐる—試論—戦時下無教会陣営の対応—」, 内村鑑三研究編集委員会『内村鑑三研究』第40号（キリスト教図書出版社, 2007年）, pp. 88～133。
- 原口尚彰「矢内原忠雄の国家観の史的検証」, 青山学院大学同窓会『基督教論集』第50号, 2007

- 年, pp. 49~60。
- 金慶允「矢内原忠雄のキリスト思想と朝鮮」(博士論文), 一橋大学, 2007年。
- 崔吉城「植民地朝鮮におけるキリスト教—矢内原忠雄を中心に—」, 崔吉城・原田環編『植民地の朝鮮と台湾—歴史・文化人類学的研究—』(第一書房, 2007年), pp. 257~285。
- 江端公典「日本近現代史のなかの平和論—内村鑑三・矢内原忠雄・南原繁の場合—」, ロバート・オウエン協会『ロバート・オウエン協会年報』第32巻, 2008年, pp. 34~47。
- 大本達也「キリスト教徒としての矢内原忠雄の戦争観—植民政策と再臨信仰—」, 京都外国語大学『日本語・日本文化研究』第14号, 2008年, pp. 25~37。
- 尾上新太郎「小林秀雄と矢内原忠雄とにおける自己の根拠の相違について—両者の戦争に対する態度にふれつつ—」, 大阪大学日本語日本文化教育センター『日本語・日本文化研究』第18巻, 2008年, pp. 17~29。
- 今泉裕美子「矢内原忠雄の遺した課題—戦後日本にとっての『国際関係研究』と『沖縄問題』—」, 東京大学出版会『UP』第38巻5号, 2009年, pp. 45~49。
- 鴨下重彦「矢内原忠雄とキリスト教—今なぜ矢内原なのか—」, 東京大学出版会『UP』第38巻6号, 2009年, pp. 51~55。
- 川中子義勝「矢内原忠雄—預言者の悲哀—」, 東京大学出版会『UP』第38巻3号, 2009年, pp. 32~35。
- 菊川美代子「天皇観と戦争批判の相関関係—矢内原忠雄を中心にして—」, 現代キリスト教思想研究会『アジア・キリスト教・多元性』第7号, 2009年, pp. 51~71。
- 菊川美代子「矢内原忠雄の義戦論」, 基督教研究会『基督教研究』第71巻2号, 2009年, pp. 57~74。
- 齋藤英里「朝鮮関係をアイルランド史中に読むべし—矢内原忠雄未発表『講義ノート』の検討—」, 武蔵野大学政治経済研究所『武蔵野大学政治経済研究所年報』1号, 2009年, pp. 281~302。
- 辻雄二「矢内原忠雄『台湾調査ノート』の分析(1)」, 琉球大学『琉球大学教育学部紀要』第74巻, 2009年, pp. 141~161。
- 辻雄二「矢内原忠雄『台湾調査ノート』の分析(2)」, 琉球大学『琉球大学教育学部紀要』第75巻, 2009年, pp. 1~17。
- 成田育男「新渡戸稲造とその水脈—柳田国男と矢内原忠雄—」, 弘前学院大学『地域学』第7号, 2009年, pp. 27~46。
- 森上優子「近代日本における人間教育—矢内原忠雄をてがかりとして—」, 日本道德教育学会事務局『道德と教育』第53巻, 2009年, pp. 114~123。
- 森上優子「矢内原忠雄と教育」, 日本宗教学会『宗教研究』第82巻4号, 2009年, pp. 524~525。
- 若林正丈「矢内原忠雄と植民地台湾人—植民地自治運動の言説同盟とその戦後—」, 東京大学大学院総合文化研究科『東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』14号, 2009年, pp. 7~33。
- 大本達也「キリスト教徒としての矢内原忠雄における戦争観(2)—その民族観と「ローマ書簡」—」, 京都外国語大学『日本語・日本文化研究』第16号, 2010年, pp. 58~73。

- 川中子義勝「矢内原忠雄と教養学部」, 東京大学教養学部編『高校生のための東大授業ライブ—熱血編—』（東京大学出版会, 2010年）, pp. 116~131。
- 辻雄二「矢内原忠雄『台湾調査ノート』の分析(3)」, 琉球大学『琉球大学教育学部紀要』第76巻, 2010年, pp. 1~12。
- 中川憲次「学びの本質—矢内原忠雄の『土曜学校開講の辞』をめぐって—」, 福岡女学院大学『福岡女学院大学紀要人間関係学部編』第11巻, 2010年, pp. 45~52。
- 西川潤「日本の台湾統治思想—後藤新平・田健治郎・矢内原忠雄—」, 西川潤・蕭新煌『東アジア新時代の日本と台湾』（明石書店, 2010年）, pp. 303~326。
- 役重善洋「内村鑑三・矢内原忠雄におけるキリスト教シオニズムと植民地主義—近代日本のオリエンタリズムとパレスチナ／イスラエル問題—」, 現代キリスト教思想研究会『アジア・キリスト教・多元性』第8号, 2010年, pp. 67~78。
- 戴国輝「細川嘉六と矢内原忠雄」, 戴国輝『台湾史の探索』（みやび出版, 2011年）, pp. 240~260。

〔藤田若雄関係〕

①藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集—第1巻—』（木鐸社, 1983年）中に、「矢内原先生をいたむ」（pp. 134~135）, 「矢内原忠雄先生の死に際して」（pp. 139~140）, 「戦いの跡」（pp. 140~145）, 「矢内原先生と東京独立新聞」（pp. 145~148）, 「矢内原先生略歴」（pp. 148~151）, 「矢内原忠雄先生と『嘉信』」（pp. 151~154）, 「『活ける事実』と『選びの選択性』—一人間の自己疎外—」（pp. 155~163）, 「出会い」（pp. 163~164）, 「矢内原忠雄全集刊行についての訴え」（p. 168）, 「矢内原忠雄全集をすすめる」（p. 170）, 「座談会—植民政策学者および教育者としての矢内原先生—」（pp. 171~173）, 「『イエス伝』講義のころ」（pp. 176~179）, 「矢内原先生の信仰と戦いについて」（pp. 179~185）, 「矢内原忠雄」（pp. 209~232）, 「矢内原忠雄」（pp. 316~327）, が所収されている。同書中の『東京通信』編では, 主要な論説として「一歩全身(1)」（pp. 357~358）, 「われらは如何なる問題と闘ってきたか」（pp. 388~390）がある。

②藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集—第2巻—』（木鐸社, 1983年）中に, 「『嘉信』の意義」（p. 16）, 「構想力」（pp. 19~23）, 「抵抗と支持で貫く—矢内原忠雄の『嘉信』復刻—」（pp. 32~33）, 「『矢内原忠雄』より」（pp. 55~58）, 「応召の時」（pp. 58~61）, 「『土曜学校講義』の意義」（pp. 63~67）, 「矢内原忠雄著『イエス伝』解説」（pp. 82~87）, 「矢内原忠雄著『マルクス主義と基督教』」（pp. 101~103）, 「『矢内原忠雄集』の解説」（pp. 122~125）, 「一座談会—矢内原から茅へ」（pp. 199~206）, が所収されている。同書中の『東京通信』編では, 主要な論説として「矢内原忠雄先生と聖書」（pp. 287~290）, 「矢内原先生の信仰指導」（pp. 292~294）, 「土曜学校講義」（pp. 295~297）, 「自著新刊案内『矢内原忠雄』—その信仰と生涯—」（p. 306）, 「無教会信徒の戦い—その戦前と戦後—」（pp. 315~318）, 「南原・大内・黒崎・楊井・大塚編『矢内原忠雄—信仰・学問・生涯—』」（pp. 333~334）, 「矢内原忠雄一人と思想—」（pp. 357~360）, 「矢内原忠雄著『マルクス主義とキリスト教』」（pp.

360～361), 「平和の使徒—矢内原の平和の戦い—」(pp. 379～380), がある。

③藤田若雄キリスト教社会思想著作集刊行会『藤田若雄キリスト教社会思想著作集—第3巻—』(木鐸社, 1984年)中に, 「『回想』・藤田若雄先生に聞く—その学問と信仰—」(pp. 21～48), 「『藤田若雄先生に聞く』補遺」(pp. 49～51), 「内村鑑三記念講演研究中間報告Ⅰ『敗戦の神義論』」(pp. 65～73), 「内村鑑三—その『信仰』の性格と『無教会』の思想—」(pp. 73～83), 「内村鑑三記念講演研究中間報告Ⅱ」(pp. 114～155), 「矢内原忠雄」(pp. 155～170), 「内村鑑三記念講演研究中間報告Ⅲ」(pp. 192～211), 「内村鑑三記念講演研究中間報告Ⅳ」(pp. 220～228), 「『敗戦の神義論』追加・補遺」(pp. 238～245), 「『内村鑑三を継承した人々(上)』より」(pp. 276～312), 「矢内原忠雄—内村鑑三と新渡戸稲造の弟子—」(pp. 321～332), が所収されている。同書中の『東京通信』編では, 主要な論説として「障壁を突破するもの(1)」(pp. 355～356), 「障壁を突破するもの(2)」(p. 360), 「内村と矢内原の非戦論(1)」(pp. 403～404), 「内村と矢内原の非戦論(2)」(pp. 411～413), がある。

[中文著書の部]

陳茂源譯『日本帝國主義下之臺灣』(臺灣省文獻委員會, 1952年)。

周憲文譯『日本帝國主義下之臺灣』(臺灣銀行經濟研究室編『臺灣研究叢刊』第三十九種, 1956年)。

矢内原忠雄『林肯』・陳雨成 陳許素華譯(協志工業振興會, 1958年)。

矢内原忠雄『基督教入門』・張漢裕譯(協志工業叢書出版股份有限公司, 1968年)。

矢内原忠雄『耶穌傳』・涂南山譯(人光出版社, 1987年)。

矢内原忠雄『我所尊敬の人』・郭維租譯(人光出版社, 1987年)。

矢内原忠雄『創世記講義』・郭維租譯(人光出版社, 1988年)。

矢内原忠雄『撒母耳記講義』・郭維租譯(人光出版社, 1989年)。

矢内原忠雄『約翰福音講義』(上)・郭維租譯(人光出版社, 1991年)。

矢内原忠雄『約翰福音講義』(下)・郭維租譯(人光出版社, 1991年)。

矢内原忠雄『以賽亞書講義』・郭維租譯(人光出版社, 1992年)。

吳得榮『背十字架の帝大教授—矢内原忠雄の信仰歷程—』(中國信徒佈道會, 1995年)。

矢内原忠雄『羅馬書講義』・涂南山譯(人光出版社, 1997年)。

矢内原忠雄『啓示錄講義』・郭維租譯(人光出版社, 1999年)。

矢内原忠雄『詩篇講義』・郭維租譯(人光出版社, 1999年)。

矢内原忠雄『教育與人』・李嬋姪譯(人光出版社, 2003年)。

林明德譯『日本帝國主義下之台灣』(吳三連臺灣史料基金會, 2004年)。

矢内原忠雄『内村鑑三先生與我』(上)・郭維租譯(永望文化事業有限公司, 2009年)。

矢内原忠雄『内村鑑三先生與我』(下)・郭維租譯(永望文化事業有限公司, 2009年)。

何義麟『矢内原忠雄及其帝國主義下之台灣』(台灣書房, 2011年)。

矢内原伊作『矢内原忠雄傳』・李明峻譯(行人出版社, 2011年)。

[中文論文・記事の部]

- 周憲文「矢内原忠雄年譜」, 臺灣銀行經濟研究室『臺灣經濟金融月刊』第10卷第4期, 1974年, pp. 40~48。
- 矢内原忠雄「論台灣抗日民族運動」・周憲文譯, 『大學雜誌』第90期（重慶圖書公司, 1975年）, pp. 12~18。
- 林滿紅「日據時代臺灣經濟史研究之綜合評介」, 『文學評論』第一期（華世出版社, 1985年）, pp. 161~209。
- 顏建發「資本 VS 權力『台灣的資本主義化』讀後」, 『中國論壇』第36卷2期（中國論壇社, 1990年）, pp. 115~117。
- 韓良俊・陳美蓉編譯「矢内原忠雄（1893~1961）」, 『台灣史料研究』第7號（財團法人吳三連台灣史料基金會, 1996年）, pp. 180~186。
- 若林正文「矢内原忠雄と台湾—『帝國主義下の台湾』をめぐって—」（日文）, 台灣應用日語學會『台灣應用日語研究』第二期, 2005年, pp. 1~22。
- 吳密察「矢内原忠雄『帝國主義下の台湾』的一些檢討」, 吳密察『台灣近代史研究』（稻鄉出版社, 2006年）, pp. 177~208。
- 宋斐如「評『帝國主義下の台湾』」, 宋斐如『宋斐如文集』卷5（海峽學術出版社, 2006年）, pp. 5~11。
- 春山明哲「新渡戸稻造と矢内原忠雄—学問と信仰—」（講演：「『台湾近代史』と4人の日本人—後藤新平・岡松参太郎・新渡戸稻造・矢内原忠雄—」第二回（日文）, 國立臺灣師範大學台灣史研究所『師大臺灣史學報』第2期, 2009年, pp. 241~256。
- 李弘祺「矢内原忠雄與東京大學的通識教育—意義與省思」, 李弘祺『卷里營營：歷史, 教育與文化演講集』（允晨文化事業股份有限公司, 2012年）, pp. 227~246。

**

[附記] 本稿の作成にあたって, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス図書館, 同志社大学神学部図書館, 国立国会図書館関西分館の関係各位には, 特にお世話になった。記して感謝を申し上げます。また, 立命館大学社会システム研究所「アジア社会研究会」に参集する皆様からも多くの助言を得ながら, この目録はまとめられたものである。